

平成18年(昭和31年)5月16日(火)

東海の古代

第72号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市中区徳川1-729

メール frttokai@zm.commufa.jp

電話/FAX(カラー可) 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

5月の連休を利用し、今年も九州へ行ってきました。参加者は6名。段取の下手際が数々ありましたが、それでも多くの成果を得られたと思います。急遽2号車の運転を引き受けていただいた田中さん、お疲れ様でした。方向音痴な私の迷走によくついてこられたものです。

3日間の彷徨の次第は以下のようです。

第1日(5月4日)

水城跡

■太宰府市国分2丁目

まずは太宰府の入り口、水城を訪れました。あらためてその規模の大きさに驚かされました。

筑前国分寺跡

■太宰府市国分4丁目

水城のすぐ近く、礎石しか残っていませんが、かつての栄華が感じられました。

九州国立博物館

■太宰府市石坂

正直、あまり期待していなかったのですが、一応挨拶はしておかねばと寄りました。うれしい誤算でした。展示室はとにかく広い、とにかく展示が多い。予想外に時間がかかり初日の予定がすっかり狂いました。大野城にも行くはずでしたが省略。竈門神社も省略。

筑紫神社

■筑紫野市原田

かろうじて寄れたのがこの神社。「筑紫」の名発祥の地であります。元は基山の上にあったとされます。古田先生も取り上げた筑前国風土記に関わる神社であり、楽しめました。粥占神事を伝えていることも重要です。

第2日(5月5日)

この日の目標は太宰府と高良山を結ぶラインの東側の探索です。取りこぼしも多かったです。

高良山

■久留米市御井町

一昨年も来たところですが、改めて神籠石を見ました。太宰府から見て、やはりここが「南山」と思われます。

甘木歴史資料館

■甘木市甘木

甘木、朝倉地方のデータを仕入れに立ち寄りしました。途中に通過してしまった「平塚川添遺跡公園」は帰りに寄ってみるとかなり立派な施設でした。残念ながら閉園時間後で入れませんでした。惜しいことでした。

恵蘇八幡宮

■朝倉町大字山田

齊明天皇の御陵とされる山にある神社です。天智がもがりをした「木の丸殿」跡もあります。

杷木神籠石

■朝倉郡杷木町

筑後川を遡りもう大分県も近いこんなところにも神籠石があるとは。神籠石は壮大な規模で九州王朝の中心域を囲んでいました。

長安寺廃寺跡

■朝倉町大字須川

日本書紀にも載る「長安寺」の跡とされる場所に行きました。「朝闇神社」がありました。「猿沢の池」があったのも興味深いことでした。「天子の森」もありました。

大己貴神社

■朝倉郡三和町

オオナムチの神様はやはり九州で厚く信仰されていました。「三輪山」の近くで祭られています。

仙道古墳

■筑前町

2日目最後は、公園になっている仙道古墳に寄りました。石室を再現した模型を展示する施設があり興味深いものでした。古墳は特徴ある埴輪も含め再現しており、よくイメージが再現されていると思いました。

第3日

矢俣神社

■三養基郡三根町

最終日はヤマタノオロチ探しです。久留米から筑後川を渡り、佐賀県に入っただけで、そのものズバリの神社がありました。ヤマタは現地名に由来します。

宇佐八幡宮

■三養基郡三根町

道筋で面白い名なので立ち寄りしました。

高志神社

■神崎郡高志町

ヤマタノオロチは古事記では「高志」からやってきたとされます。高志はタカシです。コシとは読めません。ここは弥生遺跡の出土地でもあり、古代の拠点だったと思われます。「高志狂言」を現代に伝え、伝統文化の誇り高い地でもあります。

櫛田宮

■神崎郡神埼町

ここにオロチ伝説あり。境内にはオロチを酔わせた酒ガメも鎮座しています。やはりヤマタノオロチは筑後川で生まれたのです。

子供向けテーマパークと化した吉野ヶ里公園は外を一周するだけで済みました。

船石遺跡

■三養基郡上峰町

もう雨が降り出したので、遺跡見学はここで終わり。迷いながらたどり着きました。明らかに支石墓の天井石である船石、亀石や鼻血石という名の石も面白い。近くにあるという船石南遺跡、去年行った堤土壘は断念しました。史跡めぐりはここまで。

九州歴史資料館

■太宰府市

最後になりましたが、絶対寄りたかったところでした。もちろん大野城から出土した木柱に刻まれた文字「浮石部」の実物を見学するために。瀬戸の林さんのおかげで「課長さん」から詳細な説明等を受けることができました。浮石は地名のようです。私としては韓国榮州の「浮石寺」（672年完成）が気になります。

3日間をふりかえって、どこにもツツジが咲き誇っていたこと、愛知と違い、どこでも麦の青々とした葉が風にそよいでいたことが印象的でした。（住所表記はいわゆる「平成の大合併」による変更に対応できていません。）

旅の宿題

今回の旅行で参加者各自が今後の学習にさまざまなヒントを得たと思います。私としては、「庚午年籍」が重要な課題となってきました。

わが首都＝太宰府は考古学上、地層が3期に分かれます。Ⅰ期は掘立柱の建物群。Ⅱ期とⅢ期は礎石を置いた建物群。そしてⅡ期の地層は焼土で覆われています。

通説ではⅡ期の建物は8世紀初めごろ建てられたが藤原純友の乱で焼かれ、その後Ⅲ期の建物がほぼ同じ場所に再建されたとします。しかしそんな文献的根拠はありません。古田史学では7世紀後半に太宰府は一度焼失したとします。特に古田先生は唐軍が焼いたと考えられておられるようです。そこで庚午年籍が問題になります。これは庚午年（六七〇）に作られ、一方続日本紀によ

れば、神亀四年（七二七）に太宰府にある全九州分七七〇巻に官印を押しています。この書類はその間の激動の時期を無事に乗り切ってきたのです。つまり太宰府が焼かれたのは六七〇年以前、そして白村江の敗戦（六六三）以降の時期のはずです。

また庚午年籍は「評」制の下で作られたはずで、あちこち「評」の文字が書かれていたはずで、8世紀を迎えた時、せっせと「郡」に書き換えられたのでしょうか。しかも庚午年籍は特別に保存を義務付けられた文書になっています。見苦しく墨を塗られたまま大切に保管され続け、行政の基本にされていたわけですから。私にはまことに不思議なことに見えます。

あの混乱期に戸籍作成が全国的に行われたというのも不思議なことです。

庚午年籍を研究することは7世紀から8世紀への、九州王朝から大和王朝への機構の転換を辿る作業でもあるようです。やりがいのある課題です。

6月例会に参加を

日程：6月11日（日）午後1時～4時半

場所：名古屋市公会堂第3集会室（2階）

名古屋市昭和区鶴舞1丁目1-3

地下鉄鶴舞線「鶴舞」下車4番出口徒歩2分

JR中央本線「鶴舞」下車公園出口徒歩2分

参加費：500円（維持会員は無料）

今後の予定

7月例会：7月2日（日）

8月例会：お盆で休み

例会はなるべく毎月第2日曜日に固定したいのですが、7月は第1日曜日です。会場は同じ市公会堂ですが第1集会室です。

また7月例会は古賀達也氏の講演会を兼ねます。演題は「九州年号研究の新局面－九州年号木簡の発見－」です。期待してください。

なお例年通り、8月に日帰りの見学会を実施したいと思います。アイデアを出してください。

古田先生とその学問に興味のある方ならどなたの参加も歓迎します。また参加に際し事前連絡は不要です。遅刻早退もかまいません。